

## チェコ語の連文の F S P 機能

— 接続語の F P (機能的構成) について —

本 城 二 郎

### 0. 序論：チェコ語の類型的特徴と機能構造

チェコ語は、形態類型論的には屈折タイプに属する。名詞句は、支柱語としての名詞が固有の格・数・性カテゴリー表示子により文法機能を付与され、名詞を中心とした文法的な一致により形成される限定・修飾構造を示す。文は、支柱語としての動詞が固有の法・時制・極性カテゴリー表示子により文法機能を付与され、主に動詞を中心とした結合価により形成される叙述・文型構造を示す。機能構造論の観点からは、支柱語は、構造の各レベルにおける文法的構成のみならず（伝達）機能的構成の中心的役割を担う要素となり、とりわけその部分に典型的な類型的特徴が反映されている。複数の語（名詞句）から構成される連語（複合名詞句）に対して、複数の文から構成される連文（複文・重文）は、文法的にも機能的にも互いに極めて類似したパラレルな構造と見なされる。この立場に立てば、語内要素の *ad-hoc* な連結機能要素である前置詞に対しては、接続詞が連文内要素の *ad-hoc* な連結機能要素となり、ともに格・数のカテゴリーの担い手としての資格を持つと同時に、連結概念を表示する要素となる。接続詞には、その語源からも明らかなように、先行要素の指示役割としての定性カテゴリーや話者モダリティを反映する法カテゴリーの内在必確認される。本論の目的は、チェコ語の多様な連文が、どのような類型的特徴を示し、どのような（伝達）機能原理およびメカニズムに基づいて構成されるのかを、主として（接続詞を含む多様なバリエーションを形成する）接続語の機能分析を通じて、観察することである。

### 1. チェコ語の連文の形式的特徴と接続語

チェコ語の連文は、形式的には、（接続詞を含む）接続語無し<sup>1</sup>の文連続が文語においても比較的濫用されることを除き、[動詞－従属接続詞] および [名詞－関係詞] の呼応やさらに前倚辞的小詞（*-ž/-že/-li/-by*等）の付加による従属接続語の表示等の文法的手段の発達により、同じ特徴を共有する西スラブ語の中でも、極めて典型的な文法的接続形式による連文を実現している。本章は、チェコ語の連文の形式的特徴を探ることを試みる。

#### チェコ語の連文のタイプ：内容（意味）的分類と文法（形式）的分類

連文は、内容（意味）的基準に基づき文が担う命題（文命題）間の関係として特徴づけられる一方、文法（形式）的基準に基づき文間の文法的連結手段の属性として特徴づける

ことが可能である。その際、基準の適用に関し、前者つまり内容（意味）的基準が後者つまり文法（形式）的基準より上位の関係にあることを分類の出発点とする必要がある。なぜなら、口語発話に汎用される接続語無し連文（ASYNETIC PARATAXIS）には後者の適用が不可で、専ら前者の基準のみが適用されること、さらに文語に濫用される接続語付き連文（SYNETIC PARATAXIS/HYPOTAXIS）にも、後者の基準の適用のみで連文の特徴づけが確定することはなく（文法的基準＝必要条件≠十分条件）、文法的連結手段を文間の内容的関係と照合した後、つまり前者の基準の適用を経た後、初めて連文の特徴づけが完了すること（内容的基準＝必要十分条件）、の2つの根拠が存在するからである。内容的基準は、包含関係と結合関係により2類にタイプ分けされ、さらに意味的基準により2つのタイプに下位分類され、文命題間には、次の4タイプを設定することが可能である。

内容的分類：上位分類

文ペアを文命題間の関係として捉えるタイプ分類：

- i. 包含関係つまり文ペアが文命題の合併に基づき、ある文命題（従命題）P1が他の文命題（主命題）P2の成分の意味要素を構成するタイプ <包含タイプ>

意味的分類：下位分類

- a. 述語の結合価に基づき、支配する項を表示するタイプ <補足タイプ> **補文**  
 b. 名詞句の修飾に基づき、限定される項の属性を表示するタイプ <限定タイプ>  
**(限定的) 関係詞文**

- ii. 結合関係つまり文ペアが2つの文命題の連結に基づき、ある文命題が他の文命題の成分を構成しないタイプ <結合タイプ>

意味的分類：下位分類

- c. 意味的依存関係に基づき、ある文命題（従命題）P1が他の文命題（主命題）P2の背景設定（時間的・原因的等）を表示するタイプ <意味的依存タイプ> **副詞文**  
 d. 意味的依存関係に基づかず、互いの文命題間に内容的関係（論理的接続・論理的離接等）が存在するタイプ <内容的関係タイプ> **置文：連結文・逆接文・選択文**

- i a. <補足タイプ>の接続語：名詞化接続詞

**že**: 無標、**aby**: 願望、**zda**: 真実性の保留、**kde/kdy/proč**: 疑問詞の指示対象の保留

- ① 接続語が主文の述語の意味特徴により決定される場合：/文法化接続形式/

**Oznámil mi/Slibil mi//Připadlo mi//Líbí se mi, že ...**

(私に...を知らせた/と約束した//私は...ということになった//...が好きだ。)

- i b. <限定タイプ>の接続語：関係詞

**který**: 無標基本形、**jenž**: 文語形、**kde/kam/odkud/kudy**: 場所の限定、**kdy(ž)/odkdy/dokdy**: 時の限定、**jaký**: 性質の限定、**jehož/jejíž/jejichž**: 所有者の限定

- ② 概念・種類を詳述することにより限定する**který**の場合：

**Pes, který štěká, nekouše.** </因果関係/> **Jestliže pes štěká, (pes) nekouše.**

(吠える犬は、人を噛まない。＜犬は、吠えれば、人を噛まない。＞)

i c. <意味的依存タイプ>の接続語：副詞化接続語

**když**：時設定による依存の基本形、**až**：未来における時設定、**zatímco** 期間設定、**kdykoli**：繰り返しの時の設定、**jak(mile)/sotva/jen co**：直後時の設定、(**dříve/předtím**) **než**：直前時の設定、**protože/neboť**：理由設定による依存、**aby**：目的設定による依存、**jako by**：様態設定による依存、**kdyby**：条件設定による依存

③ 同時性の設定による依存**když**の場合：

**Přišel jsem do kina, právě když začínali hrát.**

(ちょうど上映が始まったとき、僕は映画館に来た。)

i d. <内容的関係タイプ>の接続語：並列接続詞

<連結関係>**a**：無標形、**i**：有標形で緊密な連結関係、**ani**：**i**の否定形、**jak-tak**：両肢連結形、**což/čímž/příčemž**：先行文内容との結合関係

<漸進的關係>**ba/dokonce**：追加の必然性の関係、**nejen-ale (i)**：追加の妥当性

<逆接関係>**ale/avšak**：無標形、**zato/jenže/ač(koli)/přestože**：譲歩の関係、**naopak**：背反の関係、**místo aby/co**：交代の関係、**sice-ale**：容認後の否定

<離接関係>(**buď-**)**nebo**：条件的離接の関係、**ať(si)-ať/nebo**：無条件的離接の関係

<結果関係>**a proto/takže**：結論・結果の関係

④ 逆接関係**ale/však**の場合：

**Tomáš byl dobrý student, ale byl na matematiku slabý.**

(トマーシュは、よくできる学生だが、数学は弱かった。)

複文のタイプ：i a. <補足タイプ>：従属接続語により特徴づけられるタイプ

動詞(述語)の結合価により以下の6つのタイプに分類される。

従文が主文述語の主格結合価を示す場合：評価表示述語+**že**の例

⑤ **Líbí se mi, že/když/jak Bořek pracuje.** **že**:無標;**když**:有標で非現実性;**jak**:有標で様式への注目

(私は、父が喜んで働いているのが/時が/様子が好きです。)

従文が主文述語の対格結合価を示す場合：情報所有・知覚述語の例

⑥ **Bořek viděl, že/jak Jirka čte detektivku.** **že**:無標;**jak**:有標で様子への注目

(ボジェックは、イルカが推理小説を読んでいるのを/様子を目にした。)

従文が主文述語の属格結合価を示す場合：願望・不安述語+**aby**の例

⑦ **Karla se bála, aby nepřišla pozdě.**

(カルラは、遅く来たのではないかと心配だった<遅く来ないようにと...。>)

従文が主文述語のk+与格結合価を示す場合：使役述語+**aby**の例

⑧ **Bořek mě přinutil, abych odešel.**

(ボジェックは、僕を退去させた<僕に退去するよう強制した。>)

従文が主文述語のo+前置格結合価を示す場合：認知述語+o+**tom, že**の例

⑨ Přemýšlel o tom, že prodá auto/zda mám prodat auto.

(彼は、車を売ること／べきかどうかについてよく考えた。)

従文が主文述語の具格結合価を示す場合：「詳細・詳しい」型述語の (+tím), že の例

⑩ Honza se pyšnil (tím), že vyhrál ve sportce.

(ホンザは、サッカーくじで勝ったのが自慢だったく...ので鼻が高かった。)

2. FP (機能的構成) とそのヒエラルキー

FP (機能的構成) とは、言語の伝達要素がその属する伝達場中で果たす伝達機能に応じて配列される言語構成を意味する。伝達場は、言語体系を形成する各層が階層性によって関係づけられ、各層を構成する伝達要素が固有の基本配列を示し、構成の中心を成す要素に固有の文法カテゴリー表示子が担う TrPr (移行・仲介・連結) 役割を通じて、所与の伝達場はより上位の伝達場の一要素として上位の伝達場の構成に参加する。他方、各伝達場内部の機能的構成は、要素間の機能的結束を担う Th-Rh ネクサスにより規定され、その結果層体系全体における各層の構造的緊密性が保証される。伝達場を形成する層には、名詞句一文一連文という上昇的階層関係が一般的であるが、その他にも下層のシラブル、上層の段落テキストなどを設定することも可能である。形式的観点からは、上記の階層関係はマイクロ構造-メゾ構造-マクロ構造に対応すると考えられる。(Svoboda(1989)参照)

2. 1. FCP (機能的連文構成) と FSP (機能的文構成)

FCP (Functional Complex/Compound Sentence Perspective: 機能的連文構成) とは、連文要素つまり要素文が連文中で果たす伝達機能 (FCP 機能) に応じて配列される連文構成を意味し、無標では複文の場合に Th(テマ)-TrPr(新プロバ)-Tr(新)-Rh(レマ)<sub>Rh1-TrPr-Rh2</sub> [Th-TrPr-Tr-Rh] 語順を、重文の場合に Rh1 [Th-TrPr-Tr-Rh]<sub>-TrPr-Rh2</sub> [Th-TrPr-Tr-Rh] 語順を基本配列とする。連文の機能的構成の中心をなすのは、接続語の DE (定性カテゴリー表示子) + CNE (格・数カテゴリー表示子) 要素で、固有の TrPr (仲介・連結) 役割を通じて、連文全体は一段落テキスト要素として段落テキスト構成に参加する。他方、連文内の機能的構成の中心をなすのは、連文の連結概念部分で、固有の Tr (移行) 役割を通じて、連文内の要素間の機能的結束 (Th-Rh ネクサス) を可能にしている。FSP (機能的文構成) とは、文要素が文中で果たす伝達機能 (FSP 機能) に応じて配列される文構成を意味し、無標では Th-TrPr-Tr-Rh 語順を基本配列とする。文の機能的構成の中心をなすのは、定動詞の TME (法・時制カテゴリー表示子) 要素で、固有の TrPr (仲介・連結) 役割を通じて、文全体を言語外現実結びつけ現実発話とする。他方、文内の機能的構成の中心をなすのは、定動詞の概念内容部分で、固有の Tr (移行) 役割を通じて、文内部の要素間の機能的結束 (Th-Rh ネクサス) を可能にしている。複数の名詞句により連結構成される連語に対して、複数の文により連結構成される連文 (複文・重文・重複文等) は、前者の前置詞・ $\phi$  連結語が担う TrPr-Tr (連結・移行) 役割を接続詞・ $\phi$  接続語が担うことにより、要素文の連文構成が可能となる。連文の FCP 構成は、名詞句の FNP 構

成と類似の特徴を持ち、その基本配列は(ThPr-)Rh-TrPr-RhPrとなる。特異なタイプとしては独立従属文(節)があるが、それは単文の一種と見なされ、FCP要素付加の結果、その基本配列は $_{TrPr-}(Th-)TrPr-Tr-Rh$ となる。

FCP基本配列：複文の場合：~~Th-TrPr-Tr-Rh~~ ~~Rh-TrPr-Tr-RhPr~~ [Th-TrPr-Tr-Rh]

重文の場合：~~Rh~~ [Th-TrPr-Tr-Rh] ~~-TrPr-Tr-RhPr~~ [Th-TrPr-Tr-Rh]

独立従属文(節)の場合：~~TrPr-Rh~~ (Th-TrPr-Tr-Rh)

FSP基本配列：述語動詞文：~~ThPr-(ThPro-)Th-DTh-TrPr-(TrPro-)Tr-Rh-RhPr~~

一語文の場合：~~(ThPr-Rh-TrPr)~~ Rh-TrPr

FNP基本配列：名詞句修飾要素前置の場合：~~(ThPr-)TrPr-DTh-Rh-Tr-TrPr~~

名詞句修飾要素後置の場合：~~(ThPr-)DTh-TrPr-Tr-Rh~~

連語の場合：~~(ThPr-)Rh-TrPr-RhPr~~

(注)網掛け部分は、類似性が確認される箇所を表わす。

基本配列の部分的(全体的)類似性は、背景にある機能構成原理の同一性を示唆し、その結果、機能構造におけるレベル間の平行性という現象が確認される。

レベル間の平行性：複文 $\equiv$ 述語動詞文+連語//重文 $\equiv$ 連語/独立従属文(節) $\equiv$ 一語文 $\equiv$ 修飾要素前置名詞句//述語動詞文 $\equiv$ 修飾要素後置名詞文

## 2. 2. FNP(機能的名詞句構成)からFCP(機能の連文構成)へ:

### FNCとFCPのパラレリズム

機能の構成の観点に立てば、文は要素として連文のFCP構成に参加する一方、それ自身は、FNP構成を示す名詞句が参加するFSP構成を示す。連語と連文の機能の類似性からは、構成の中心にある連結機能を担うTrPr(o)要素に固有の文法カテゴリーの対応関係つまり名詞句の格・数表示子と連文の定性・法表示子との機能的一致(MDE $\equiv$ CNE)関係が設定され、その結果FNP構成とFCP構成との間におけるパラレリズムの存在が確認されることになる。解釈語順は、共にTh-TrPr-Tr-Rhに代表される基本配列を示す一方、実際の無標語順は、チェコ語名詞句の前置修飾の場合、(Th[文脈や指示詞など場面限定要素]-)Rh[形容詞など概念拡充要素]-Tr[名詞の概念内容]-TrPr[CNE要素]に代表される鏡像的配列を示し、後置修飾の場合Th[文脈や指示詞付き名詞概念内容など場面限定要素]-TrPr[CNE要素](-Tr[TME要素])-Rh[名詞句や(副詞句や)形容詞など概念拡充要素]に代表される基本的配列を示すのに対して、チェコ語複文はTh[代名詞や指示詞や文脈など場面限定要素]-TrPr[TME要素]-Tr[動詞の概念内容]-Rh[名詞句や副詞句など概念拡充要素]-Tr[従属接続詞の概念内容]-TrPr[MDE要素]-RhPr[概念拡充要素としての文]、重文は(Th[ $\phi$ 表示場面限定要素]-)Rh[概念拡充要素としての文]-Tr[並列接続詞の概念内容]-TrPr[MDE要素]-RhPr[概念拡充要素としての文]、と一貫したRh-Tr-RhPr基本配列を示すことが大きな特徴である。

次の例から明らかなように、(指示要素起源の)定性と(小詞起源の)モダリティという2つのカテゴリーを同時に内包する接続語\*は、複文中では主文(の述語)との格関係を、重文中では並列文との(同一格複数関係という)数関係をそれぞれ表示するという機能の要件から、一方では本来的なMDE(法・定性表示子)要素\*としての役割を、他方

ではCNE（格・数表示子）としての役割を、それぞれ果たす機能語と見なされる。このような連結・仲介役割は、FSPの観点からは、TrPr要素に対応することになる。接続語は、この他にも、2つの命題文（内容）を連結する際に適用される意味関係という概念内容も同時に表示することから、Tr要素も同時に内包する。その結果、接続語は、一語中に4種のカテゴリーを内包し（一要素内意義混交性）、2つのFSP要素を含む（二分割性）という特徴を持つ。このように潜在的に大きな機能負担を解消するために、チェコ語の接続語は、他の言語同様、歴史的にも新しく種類の限定された（閉じた体系の）接続詞以外にも、多様なバリエーションを今なお形成しつつあることは注目に値する。

（注）\* 例えば、チェコ語の無標の従属接続詞**že**は、**ježe/eže**が起源であるが、その際、**je**は関係詞機能と併用の指示代名詞に、**-ž(e)**は対格与格役割の接尾辞に、それぞれ分析可能である。この接続語は、元来主文内における指示目的語であり、後方照応により後続の従文との並列的關係（**PARATAXIS**）を表示していたものが、後に従文内要素として再解釈された結果、従属接続詞として汎用化するに至ったことが確認されている。この事実は、広くチェコ語の従属接続詞一般にカテゴリー（DE）および格・数カテゴリー（CNE）の存在が確認される、とする筆者の説を支持する歴史的証拠となり得る。他の（特に有標の）接続詞の語源分析に適用される小詞および間投詞起源解釈の結果、あと一つその内在性が確認される法カテゴリー（ME）の保持という現象も、証明可能である。最終的には、上記4カテゴリー内在性解釈の妥当性が支持されることになる。

古チェコ語: **jidi a pověz jim, žeť nejsem prázden.** (Otc. 14~15世紀)

<現代チェコ語訳: **jdi a pověz jim toto: nejsem volný.**

Cf. ドイツ語: **Ich weiß das, er kommt**>**Ich weiß, daß er kommt.**

ロシア語: **Ja znaju čto, on pridët**>**Ja znaju, čto on pridët.**

### 3. チェコ語の連文のFCP

複数の名詞句および複数の文の連結により形成される連語（重名詞句）および連文（複文および重文）の機能的構成は、その基本配列における類似性から、それらが適用される伝達場（伝達レベル）の相違にもかかわらず、一種の平行性を示す。この2つの類似した機能構造は、可能な3種の連結役割\*つまり名詞句+名詞句、文+文および名詞句+文における+の機能、を本来的に持つ接続詞が担うTrPr役割により特徴づけることが可能である。この点で、接続詞は、一方では名詞句+名詞句の連結役割を本義とする前置詞に対して、他方では名詞句+文の連結役割を基本とする関係詞に対して、それぞれ機能的平行性を持つことが予想される。先行名詞句の後続名詞句への連結役割を、専ら後続名詞句の格表示子（CE）と協力して果たすことが本来的な役割である前置詞に対して、接続詞は、格表示子以外にも、連結要素複数性という意味カテゴリーつまり数カテゴリーを表示する表示子（NE）、先行名詞句要素との前方照応関係という文法機能を表示する定性表示子

(DE)を内在させているという点で関係詞に近く、さらに話者の主観的・客観的モダリティを表示する法表示子(ME)のポテンシャルな付加可能性があるという点で、極めて多機能な機能語と言える。FSPの観点からは、無標の複文の場合、TrPr役割の従属接続詞は、先行するRh(Pr)役割の従文を、i. 同格要素として主文中の共指示DTh要素に、またはii. 結合価要素として主文中のTr役割述語に、またはiii. 状況(時・理由等)設定要素としてTh-TrPr-Tr役割の主文全体に、それぞれ連結する要素と解釈される一方、無標の重文の場合には、TrPr役割の並列接続詞は、それが付加される $\phi$ 表示のThPr役割の場面・文脈要素に対して、Rh役割先行文およびRhPr役割後続文を提示し、同時にそれらを連結する要素として解釈されることになる。

[重文の例] :

⑪ Jan navštívil Zdenčiny rodiče, ale nebude se zmiňovat o svatbě.

Rh TrPr RhPr

DME:共指示・平叙逆接続

異種複数性(NE)・格同一性(CE)表示子としての名詞句役割の2文を連結する等位接続詞ale Cf. 格拡張表示古(CE)役割のみの前置詞

(ヤンはズデンカの両親を訪問したが、結婚式については触れないでしょう。)

(注)太字実線部はRh要素を細字実線部はTrPr要素を、それぞれ示す。以下同様。

[複文の例] :

⑫ Jan řekl, že navštíví Zdenčiny rodiče.

DTh Tr-TrPr TrPr-Rh( Tr-TrPr Rh )

DMCNE要素:従位接続平叙対格異種複数性

(ジョンは、両親がスーザンの家を訪問するのを／ことを知っている。)

3. 1. 重文のFCP

並列接続詞は、専ら後続文(名詞句)が先行文(名詞句)と同一の格であることを表示することを通じて先行名詞句との連結役割を担う前置詞(CE)の役割と同時に重文(重名詞句)全体が複数の文(名詞句)であることを表示する数量詞(NE)の両者の機能役割つまりCNE:同一格複数性という特徴を持つことから、TrPr要素と見なされる。

[重文のFCP分析モデル] :

結果関係a protoの場合:(語彙:proto<pro~のために/~を/通って+to [中性代名詞] それ)

⑬ Karel přišel k Jaroslavově rodině, a proto se mohli pozdrávit.

Rh TrPr RhPr

DCNE要素:等位接続同一格複数性+ME要素:"結果"

(カレルは、ヤロスラフ家に来たので挨拶が出来た。)

[重文のFCP分析例] :

⑭ Tomáš byl dobrý student, ale byl na matematiku slabý. (=④)

Rh(DTh Tr-TrPr Rh) TrPr RhPr(ThPr Tr-TrPr Rh)

DCNE要素：等位接続・格同一性・異質現象複数性+ME要素：“逆接関係”

(トムはよくできる学生だが、数学は弱かった。)

### 3. 2. 複文のFCP

従属接続詞は、専ら従文の格表示を通じて主文との連結役割を担うことから、前置詞の役割を持つと同時に、自らが従文とともに主文中の一成分として組み込まれるという性質つまりCNE：異種格複数性という特徴から、TrPr要素と見なされる。

[複文のFCP分析モデル]：

主格支配動詞+žeの場合：(語彙：že<eže/ježe：指示代名詞jenžの中性主格形)

⑮ že přišel k Jaroslavově rodině, mi ani ve snu nenapadlo.

DTh(TrPr Rh( )) ThPr TrPr Th Rh=Tr-TrPr

DMCNE：従位接続(～ということ)主格複数性+ME：平叙

(彼がヤロスラフ家に来るとは／のは、夢にも思わなかった。)

[複文のFCP分析例]：

●接続語že/jak/aby/zdaの格表示手段：

／φ共指示要素+正格(主格・対格)から共指示要素+斜格への傾向／

主格支配動詞+žeの場合：

⑯ Líbí se mi (to), že Bořek pracuje. (=⑤)

Tr-TrPr Th Th Th TrPr-Rh(.....)

CE要素：主格共指示要素 DCNE要素：主格異種複数性+ME要素：(無標)平叙

対格支配動詞+jakの場合：

⑰ Bořek viděl (to), jak Jirka čte detektivku. (=⑥)

DTh Tr-TrPr Th TrPr-Rh(.....)

CE要素：対格共指示要素 DCNE要素：対格異種複数性+ME要素：(有標)“様子”

属格支配動詞+abyの場合：

⑱ Karla se bála (toho), aby nepřišla pozdě. (=⑦)

DTh Th Tr-TrPr Th TrPr-Rh(.....)

CE要素：属格共指示要素 DCNE要素：属格異種複数性+ME要素：(有標)“願望”

与格支配動詞+abyの場合：

⑲ Bořek mě přinutil (k tomu), abych odešel. (=⑧)

DTh Th Tr-TrPr Th TrPr-Rh(.....)

CE要素：与格共指示要素 DCNE要素：与格異種複数性+ME要素：(有標)“願望>命令”

o+前置格支配動詞+zdaの場合：

⑳ Přemýšlel o tom, zda mám prodat auto. (=⑨)

Tr-TrPr Th TrPr-Rh(.....)

CE要素：前置格共指示要素 DCNE要素：前置格異種複数性+ME要素：(有標)“真实性の保留”



具格支配動詞+žeの場合：

- ㉔ Honza se pyšnil (tím), že vyhrál ve sportce. (=㉒)  
 DTh Th Tr-TrPr Th TrPr-Rh(.....)

CE要素：具格共指示要素 DCNE要素：具格異種複数性+ME要素：(無標)平叙

●多様な群接続詞の派生の可能性：

／TrPr役割DCNE要素の保持と(連結概念表示の)Tr要素拡充への傾向／

- ㉕ Přestože měl úspěch, nezpyšnil. (語源：přestože<přes-にかかわらず+toそれ+že~ということ)  
 TrPr-Rh(.....) RhPr

Přestože	>	Vzdor tomu, že	>	Navzdory tomu, že
<u>TrPr-</u>		<u>TrPr-Tr-Rh-TrPr-</u>		<u>TrPr-Tr(.....)-</u>
DCNE要素		DCNE要素+ME要素：“挑戦”		DCNE要素+ME要素：“無関係”

[関係詞文]：概念限定のkterýの場合

- ㉖ Pes, který štěká, nekouše. <Jestliže pes štěká, (pes) nekouše. (=㉓)  
 DTh TrPr-Rh(.....) TrPr-Tr=RhPr

DCNE要素：限定接続・異種複数性+ME要素：(無標)平叙

(吠える犬は、人を噛まない。<犬は、吠えれば、人を噛まない。)

[副詞文]：同時性設定のkdyžの場合

- ㉗ Přišel jsem do kina, právě když začínali hrát. (=㉔)  
 ThPr-Tr TrPr Rh TrPr TrPr-Rh(.....)

TE要素：時の数量限定 DCNE要素：従位接続・斜格・異種複数性+ME要素：“同時”

(ちょうど上映が始まったとき、僕は映画館に来た。)

3. 3. 接続語欠如形式(分詞構文・独立従属文)のFCP:TME弱化欠如形式の不定形動詞やDE+CEによる先行伝達場代用役割代名詞が中心の伝達場

名詞句のFNP分析から明らかのように、完全形式である名詞句の場合、TrPr要素の連結・仲介機能が十分に発揮され、対応するCNE要素は限定・中和されることなく、形式的可変性を保持する。他方、非完全形式である副詞(句)の場合、TrPr要素の十分な連結・仲介機能が欠如し、対応するCNE要素は弱化(格の限定化・数の中和化)へと向かう。文のFSP構成におけるTrPr役割(TME表示子)の繫辞を欠く不定形動詞が、分詞(構文)化して主文の主語と結びつくと同様の関係が、副詞文の場合にも当てはまる。つまり、連文のFCP構成におけるTrPr役割(CNE表示子)の格・数語尾が、主文の削除により中和・転用された結果ME要素化し、副詞文としての従文は独立従属文(節)となり、単一発話として言語外現実と直接結びつくことになるのである。

連文の欠如形式としての分詞構文：

- ㉘ Karla, umývající nádobí, dbal, aby působila hřmotu co nejméně.  
 Tr-TrPr

DCNE要素:限定接続+弱位TME要素:同時・平叙

(カルラは、皿を洗いながら、極力音を立てないように気をつけました。)

連文の欠如形式としての副詞文役割独立従属文のFCP:

②⑥ JEN KDYZ už jsi DOMA! <Jsem spokojen (s tím), **jen když** ~. (~でさえあれば満足だ)

TrPr-Rh(Th TrPr Rh)      TrPr Tr      Th      TrPr-Rh(.....)

ME要素:“願望”

CE:具格共指示要素 DCNE要素:具格異種複数性+TME要素:“同時限定”

(お前がもう家に戻ってさえいればなあ! </主文省略/>私は~でさえあれば満足だ。)

(注) 薄文字は弱要素を、大文字は文ストレス付加要素を、それぞれ示す。

#### 4. 結論

チェコ語の連文の機能構造は、文法形式的分類(1章)および多様なタイプの具体例分析(3章)から、以下の3つの傾向として特徴づけることが可能である。

- i. 語源が示すように、従属接続詞は指示代名詞+格役割小詞から並列接続詞は間投小詞から、それぞれ発達した結果、数の複数性表示子(NE)を両者が格の同一性表示子(CE)を後者が、それぞれ獲得し、前者の定性要素(DE)+格・数要素(CNE)と後者の格・数要素(CNE)+法要素(ME)が固有要素として確定するに至った。
- ii. 群接続詞の発達は、接続詞内のTrPr役割要素から連結概念を示すTr要素を分化させることを可能にし、その結果、FNP構造中の名詞およびFSP構造中の動詞を特徴づける2機能要素併存性(Tr-TrPr連鎖)を、FCP構造中の接続詞が獲得しつつある。
- iii. 分詞構文および独立従属文(節)の機能構造は、それぞれ動詞TME要素および名詞CNE要素の弱化により規定され、その結果、それぞれは機能的不安定性を解消するために主文の名詞的Tr/TrPr要素および動詞的Tr/TrPr要素との連結を指向する。

参考文献:

Comrie, B. & G.C. Corbett(1993): *The Slavonic Languages*, Routledge:London.

Firbas, J.(1992): *Functional Sentence Perspective in spoken and written communication*, Cambridge University Press:Cambridge.

*Historická mluvnice češtiny (Historical Grammar of Czech Language)* edited by A. Lamprecht et al., SPN:Praha, 1986.

本城2002:「スラブ語比較語順論 — 前倚辞の配列と機能を中心として」、*NIDABA*第31号  
*PNČ: Příruční mluvnice češtiny (A Concise Grammar of Czech)* edited by M. Grepel et al., NLN:Brno, 1995.

*SCČ: Skladba češtiny pro cizince (Czech Syntax for Foreigners)* edited by P. Karlík and A. Svoboda, Rekrát UJEP:Brno, 1982.

Svoboda, A.(1989): *Kapitoly z funkční syntaxe (Chapters from Functional Syntax)*, SPN:Praha.